

時の動き

戦争反対！日本の憲法改悪・核武装化と闘おう！

全国一般東京東部労働組合

書記長

須田 光照

戦争で犠牲になるのは労働者

2月24日にロシアがウクライナに軍事侵攻した。すでに多くの命が失われ、人々の生活が根底から破壊されている。

戦争の惨禍はけっして平等ではない。もつとも犠牲をこうむるのは労働者民衆である。前線で殺し合わされている両国の兵士は軍服を着た労働者である。飢えて苦しむのも、住まいを奪われて難民になるのも、労働者の側である。

もう一方の資本家はどうか。戦火が及ばない安全な場所にながら、労働者民衆を戦争に動員し「祖国」のため

に命を捧げよと命令している。その裏で兵器を売りさばいてぼろ儲けしているのだ。

戦争はなぜ起きるのか。他国の市場や資源などを略奪し自国の勢力圏を確立するため、すなわち資本家の金儲けのためである。

資本主義にとって帝国主義戦争は避けられないというレーニンの『帝国主義論』は現代世界にも基本的に通用する。いまま資本主義がなくなっていないのだから当然である。今回のウクライナでの戦争も例外ではない。

資本家の利益をめぐる争奪戦

ロシア大統領のプーチンが命じた軍事行動はまぎれもない侵略である。ロシア兵を危険な戦場に送り込み、ウクライナの労働者民衆を戦車で踏みつけるような暴挙が許されるわけがない。

ロシアの「自衛」のため、ウクライナを「ネオナチ」から解放するため、といった弁明は、ロシア支配階級の利益の維持・拡大という本当の狙いを覆い隠すための口実である。

しかし同時に、ロシアのみを「悪」として糾弾する欧米の資本主義諸国にも同調するわけにいかない。



東京、水道橋で実施した東部労組などによる反戦アピール行動
(3月16日)

アメリカを中心とする軍事同盟NATO(北大西洋条約機構)は冷戦終結後も東ヨーロッパに加盟国を増やし、いわゆる「東方拡大」をすすめ、ロシアへの軍事的な包囲網を築いてきた。こうした西側諸国の支配階級の狙いもまた自分たちの利益の維持・拡大にほかならない。

軍事同盟の存在はそれ自体が他国民衆にとつて脅威である。東方拡大のテコとなったのは1999年のNATOによるユーゴ空爆という軍事行動であったことを忘れてはならない。

今回の戦争は、ロシアと欧米(西側諸国)の資本家・支配層の利益をめぐる争奪戦と見るべきだ。

自国政府の戦争政策に反対を

これに対して労働者は国が違つても対立する理由は本来ない。労働者の利害は国境を越えて共通している。殺し合う必要などまったくない。労働者階級に「祖国」はない。

われわれがともに闘うべき「本当の敵」は、いずれの国でも労働者を搾取・抑圧し、あげくの果てには戦争まで引き起こす資本家とその政府である。日本の労働者は何をなすべきか。反戦運動を闘う世界中の労働者と固く連

帯し「ただちに戦争をやめろ!」の声を上げることだ。労働者を戦争に駆りたて、他国の労働者への敵視をおおる世界中の資本家と闘うことだ。とりわけ自分たちの政府の戦争参加とあらゆる戦争政策に反対することである。

日本政府はウクライナ政府に自衛隊の防弾チョッキなどを送り、事実上の参戦国となっている。「憲法9条では国を守れない」と、この戦争を憲法改悪に利用しようとしている。元首相の安倍らは日米の「核共有」という形で日本の核武装化を公言している。

こうした動きが平和ではなく、戦争の加担と拡大、新たな戦争のぼつ発をもたらすのは明らかだ。断固として反対しなければならぬ。

今すぐ戦争をやめろ! 労働者は殺し合うな! 労働者の命を守れ! 日本の憲法改悪・核武装化に反対しよう! 万国の労働者は団結せよ!

(すだ みつてる)